

門祖曰隆聖人物語

第22回



550

堺のご弘通

国際都市・堺

門祖聖人は、永享十一年（一四三九）五十五歳の時、現在の大阪府南河内郡河南町加納の地に法華寺を建てられたんだ。

そして休む間もなく門祖聖人は、加納から西にある、当時、たいへん発展をしていた堺の町に足を延ばし、堺の町の人々が御題目をお唱えして、幸せになれますようにと、お教化のご奉公に励まれたんだ。

さて「堺」の町は、皆も知っているように「古墳」がたくさんあり、とても歴史の古い町なんだ。また海と陸の交通の要所に



堺・願本寺の全景

大阪府に隣接し大阪府第二の商工業都市として栄える堺市。堺市の歴史は古く仁徳天皇陵などの古墳でも有名なだ。門祖聖人の時代には、文芸や経済にたいへんな発展をみせ国際都市・新興都市と言われていたんだ。今回はその堺のご弘通のお話。

あり、室町時代には堺商人と呼ばれる人達を中心に、文化・経済が急速に栄え、国際都市と呼ばれる程、繁栄していたんだ。

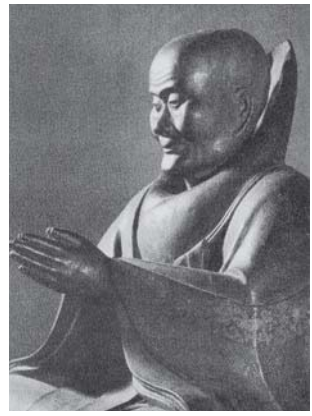


門祖聖人の御尊像を刻む仏師の浄伝

願本寺の建立

南河内の加納の村から堺の町に、お教化のご奉公に向かれた門祖聖人の熱心なご奉公により、次第に活気あふれる堺の町にも、御題目をお唱えするご信者が増えていったんだ。

堺の町にご弘通ご奉公をはじめられて十三年たった宝徳三年（一四五二）。金銀細



門祖聖人御尊像 (尼崎本興寺・重要文化財)

工などを扱う商人と材木を扱う商人の熱心な外護（ご信者方がお金や物で仏教を護ること）によって、堺の町に願本寺というお寺が建ったんだ。

そして、この願本寺の住職に加納の地で目の病気が治りご利益をいただけ、後に門祖聖人のお弟子となられた日浄師が、ご奉公に当られることになったんだ。

堺信徒の活躍

享徳二年（一四五三）、門祖聖人六十九歳の時。尼崎の本興寺でご奉公をされていた門祖聖人の右腕が突然痛み出したんだ。お弟子が「どうなさいましたか」と尋ねると、「お寺の松を誰かが切っている。すぐに止めさせなさい」と仰った。調べてみるとお弟子の小僧さんが夜に月を見るのにジャマだから切ろうとしていたんだ。

門祖聖人は「私はその木で自分の像を刻み、後の世の人々に残そうと思ってご祈願していたが、ようやくその木に私の思いが伝わったのであらう」と語られた。

やがて、堺のご信者で仏師（仏像を制作する人）の浄伝という人が呼ばれて、門祖聖人の御尊像が制作されたんだ。この御尊像は今も尼崎本興寺にご安置され、国の重要文化財に指定されているんだ。

また、鹿児島県種子島の林応（後の日典師）という律宗の僧。この林応という僧侶に門祖聖人のお弟子になるようにと勧めたのが、盲目の太都という堺のご信者なんだ。

商人を中心に町の人々が大きな力を持っていた自由都市である堺の町は、御題目を弘めるご弘通ご奉公にもたいへん熱心で、ここから多くのご信者が生まれたんだね。